

## 会告

### Design シンポジウム 2012 【講演募集】

共催：日本建築学会（幹事学会）、日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本デザイン学会、人工知能学会  
協賛：The Design Society、横断型基幹科学技術研究団体連合、日本認知科学会、International Association of Societies of Design Research

開催日：2012年10月16日（火）、17日（水）

会場：京都大学百周年時計台記念館（京都市左京区吉田本町）

#### 趣旨：

21世紀を迎えて、社会環境は急速に変化し、私たちが生み出し続ける人工物の在り方も大きな変革を迫られています。今日、国際化、都市化、人口変動、巨大災害の発生、環境問題の深刻化など、人間の生命と暮らしを脅かす多くの問題が発生していますが、これらの問題を解決するためには、個々の人工物を超えて、人工物相互の関係や人工物と人間・社会・経済・環境との関係などの多様な関係性を含むシステムに関わる複雑な問題に取り組む必要があります。人工物についても、ライフサイクル全般にわたって、これまで以上の高付加価値を創出し得る「持続可能な成長のメカニズム」を早急に実現することが必須の課題となっています。しかしこうした社会が直面している問題は、従来の縦割り型ディシプリンに基づくアプローチでは解決することはできず、その問題の態様を把握することすら困難であることが指摘されています。すなわち、設計やデザインと呼ばれる問題領域においては、このような状況を打破するための、横断領域的な知識の活用と多様な協働の形態による新たな取り組みが強く求められています。

以上の背景のもと、日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、日本デザイン学会の5学会は、「設計」や「デザイン」を包含する上位概念としての「Design」を対象とした「Design Symposium 2004」を2004年7月に開催し、「Design」を研究する新たなコミュニティを創出することに成功しました。その後、人工知能学会を加えた6学会の共催により、2年に1回ずつシンポジウムを継続的に開催し、異なる領域から多くの参加者を得て、「Design」をめぐる活発な議論の場を形成する上で大きな成果を上げてきました。

この流れを受け、異なる専門や立場の研究者、設計者、デザイナー、技術者などの多様な参加者による講演や議論を通して、「Design」という共通の問題に対する理解を深め、学術的、実践的な新たな横断の加速と、日本における設計とデザインを統合した研究の中心となるコミュニティの更なる発展をめざして、今回は初めて東京を離れ、歴史と文化の息づく京都という場所で、Design シンポジウム 2012 を開催致します。

本シンポジウムでは、一般講演のみならず、特別講演・招待講演、パネルディスカッションなど多様な企画による「議論の場の形成」を目指します。本シンポジウムをより有意義なものとするため、多数の皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

#### 講演募集キーワード：

(1) 設計工学、(2) 設計論・設計方法論（デザイン論・デザイン方法論）、(3) デジタルエンジニアリング、(4) CAD/CAM/CAE、(5) 設計プロセス、(6) 設計知識・設計情報、(7) ナレッジマネジメント、(8) 情報管理、(9) 製品開発、(10) デザイン思考、(11) 設計組織・設計主体、(12) 設計場・設計環境、(13) プロダクトデザイン・マテリアルデザイン、(14) ファッションデザイン・グラフィックデザイン、(15) 情報デザイン、(16) 空間デザイン、(17) 建築・都市・ランドスケープデザイン、(18) システムデザイン、(19) メディアデザイン、(20) ソーシャルデザイン・コミュニティデザイン、(21) コミュニケーションデザイン、(22) コラボレーション・インタラクティブデザイン、(23) インターフェースデザイン、(24) コンピュータグラフィックス・VR、(25) アルゴリズムデザイン・パラメトリックデザイン、(26) デザインと感性、(27) ユーザビリティ・ユニバーサルデザイン・エルゴノミクスデザイン、(28) DfX 方法論・DfX ツール、(29) ライフサイクルデザイン、(30) エコデザイン、(31) PDM, PLM、(32) プロダクトファミリー・プロダクトプラットフォーム、(33) 複合領域最適設計・ロバストデザイン、(34) システム工学、(35) サービス工学、(36) 発想・創発・創造支援、(37) イノベーション、(38) 学びと教育、(39) メタデザイン、(40) Design と価値・評価、(41) Design と社会、政策、文化、歴史、哲学、(42) 設計科学（デザインサイエンス）、(43) その他

#### 講演形式：

口頭発表とします。 ※PC用プロジェクターは利用可

#### 講演申込要領：

講演申込は電子メールで受け付けます。Subject 名を「Design シンポジウム 2012 講演申込」とし、(1) 題目、(2) 登壇者・連名者の氏名（登壇者に\*印）、共催学会員の方は学会名・会員資格、(3) 所属機関名・所在地、(4) 連絡先氏名・住所・電話番号・FAX 番号・電子メールアドレス、(5) 該当する講演募集キーワード（3つ）を記載した電子メールに、A4判で2頁以上（図表等含む）の講演概要をPDF ファイルにして添付して提出下さい。

**講演申込期限：**

2012年6月1日（金） ※申込は、5月1日（火）から受け付けます。

**採択通知：**

Design シンポジウム 2012 運営委員会にて、提出された講演概要の内容を審査のうえ、2012年7月20日（金）頃に通知いたします。

**最終原稿：**

採択された講演は、Design シンポジウム 2012 運営委員会の指定した書式に従い、原則としてA4判4枚（ただし最大8枚まで可能）の論文として最終原稿をご作成いただきます。

**最終原稿提出期限：**2012年9月3日（月）

**講演申込・最終原稿提出宛先：**

Design シンポジウム 2012 運営委員会に宛てて、下記 E-mail アドレスまで電子メールにて提出して下さい。

E-mail: ds2012@aij.or.jp

**特集号：**

精密工学会誌にて Design シンポジウム 2010 の特集号を発刊する予定です。発表申込論文より、Design シンポジウム 2010 運営委員会にて発表内容を審査のうえ、この特集号への投稿を推薦いたします。

**参加登録費：**

事前登録は行っておりませんので、当日受付にてご登録ください。

なお、参加費のお支払いは現金のみとさせていただきます。

共催学会員	正会員	10 000 円（論文集1部含む）
	学生会員（登壇者）	5 000 円（論文集1部含む）
	学生会員（聴講のみ）	無料（論文集なし）
非会員		13 000 円（論文集1部含む）

なお、懇親会を開催する予定です。懇親会参加費は、参加登録者（聴講のみの学生会員は除く）は無料の予定です。

**著作権：**

Design シンポジウム 2012 運営委員会では、著作権については、幹事学会である日本建築学会の以下の規定を準用します。

- (1) 著作権は著者に帰属する。ただし、著者は掲載された論文の著作権の使用を日本建築学会に委託する。日本建築学会は、第三者から複製・引用・転載に関する許諾の要請があった場合は、原著者に連絡し許諾の確認を行う。
- (2) 編集出版権は、日本建築学会に帰属する。
- (3) 著者が、自分の論文を自らの用途のために使用することについての制限はない。ただし、掲載された論文をそのまま他の著作物に転載する場合は、出版権に関わるため、日本建築学会に申し出る。

**電子形態による公開：**

Design シンポジウム 2012 にて発表した論文は、ウェブサイトから公開することを検討中です。

**Web ページ：**

特別企画などシンポジウムの最新情報は、順次、日本建築学会内の Design シンポジウム 2012 特設ページ (URL: <http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s22>) 上に掲載しますのでご覧下さい。

**問い合わせ先：**

〒615-8540

京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科建築学専攻

門内 輝行 (Design シンポジウム 2012 運営委員会委員長)

Tel&Fax: 075-383-2927

E-mail: ds2012@aij.or.jp